

第1学年 道徳科学習指導案

令和4年9月16日（金）5校時

授業テーマ

自分や周りの人のことを考え、約束やきまりを守り、安全に情報機器を使おうとする態度を育てる授業

- 1 主題名 「みんなでルールをかんがえよう」 C (12) 規則の尊重
教材名 「ルールがないとどうなるの？～スマホやゲームきをつかうとき～」(光文書院)
- 2 主題設定の理由

児童観 (略)

本教材は、情報機器を自分の好き勝手に使うと、自分の健康に影響したり、人に迷惑をかけてしまったりすることに気付き、マナーやルールを守って安全に情報機器を使っていくことの大切さについて考えることのできる教材である。その大切さに気付けるよう、道徳科と学級活動の学習を通して、関連を図り指導していくことができるよう計画した。

指導にあたっては、情報機器を扱う具体的な場面を動画で提示し、クイズ形式で解いていく。その理由を考えることで、約束や決まりを守ることの大切さに気付き、安全に情報機器を使っていこうとする態度を育てていきたい。そのために、次の点に留意する。

- (1) 導入では、7月に考えた節度、節制についての道徳科授業を想起させ、利用時間・利用場所での使用マナーやルールについて考えたことを確認する。マナーやルールについて今の自分はどうか考えているか問いかけ「マナーやルールがあるわけとは何だろう」という課題意識をもたせる。
- (2) 展開では、クイズ形式で日常生活の具体例を動画で見せ、マナーやルールがあるわけを考えさせていく。
①自分、相手、周りの人の視点 ②生活習慣や健康の視点 ③公共の場などのマナーの視点 と3つの観点到に絞り、そのときの表情を顔マークで可視化していくことで、周りの人の気持ちに目を向けさせる。そうすることで、ルールを守ると自分だけではなく周りのみんなが気持ちよく使えることに気付かせる。
- (3) 終末では、自分の生活を振り返り、本時の学習を通して、ルールやマナーについて自己を見つめなおし実践意欲につなげていく。また、この学習を踏まえ、家でのルール作りを家庭学習で行わせることで、家庭との連携を図り、情報機器を上手に使っていく態度を育てていきたい。

3 指導計画

時	教科等	「主題、題材名」 学習内容
7月	道徳科 (節度、節制)	「スマートフォンってどうやって使うの？」 いつでもどこでも使える便利な情報機器は、好き勝手に自由に使って良いのか考える。
本時	道徳科 (規則の尊重)	本時の展開による
10月	学級活動 (2)	「コンピューターとなかよし」 考えてきた家庭でのルールを共有し、安全に使おうとする意識をさらに高める。また、タブレット持ち帰りのルールを確認し、持ち帰りの準備をする。 → 深い理解と意識をもち、実践につなげる。

4 本時のねらい

自分や周りの人のことを考え、マナーやルールを守り、安全に情報機器を使おうとする態度を育てる。

5 学習過程

<p>学習活動・内容 ◇主な発問 ◆中心発問</p>	<p>時間</p>	<p>○指導上の留意点 ※評価</p>
<p>1 既習学習を話し合い、課題意識をもつ。</p> <p>◇ スマートフォンやタブレットなどは、いつでもどこでも使って良かったでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩きスマホはダメ。 ・食事中はダメ。(食事のマナー) ・勝手に人のものは使ってはダメ。 ・親のいない所で勝手にいつまでも使ってはダメ。 <p>◇ この学習をしてから、これらのマナーやルールを守っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守っている。→怒られるから。守らないとダメだから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>④ マナーやルールがあるわけとは？</p> </div>	<p>5</p>	<p>○ 既習学習の挿絵を電子黒板で提示することで、場面を想起し、話し合いをしやすいとする。</p> <p>○ 本時の課題につながるように、利用時間や場所にとどめておく。</p> <p>○ 事前学習後、そのマナーやルールを守っているか問いかけ、守っている理由を発表させることで、なぜ守るのか、マナーやルールはなぜあるのか課題意識をもたせる。</p>
<p>2 クイズに答え、情報機器を使うときのマナーやルールがあるわけを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 休みの日は、好きなだけYouTube やゲームを楽しんでも良いでしょうか？ ② スマホやタブレット、ゲームを長い時間続けても良いでしょうか？ ③ 歩きながらゲームをしたり、電話やメールをしたりしても良いでしょうか？ ④ 電車やバスの中で、電話をしたり、音を出してゲームをしたりしても良いでしょうか？ <p>3 なぜマナーやルールがあるのかを考える。</p> <p>◆ どうしてマナーやルールがあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが困るから。 ・迷惑かけないようにするため。 ・自分の健康に悪いから。 <p>4 これまでの自分を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ルールは、(じぶん)も・(あいて)も・(まわりのひと)も、(きもちよく) / (あんぜんに) すすむためにある。</p> </div> <p>◇ この考えをもってスマホやタブレットを使ったら、自分やみんなの顔はどんな顔になるかな？</p>	<p>25</p>	<p>○ クイズを動画で見せ、日常生活を想起しやすくすることで、自分の生活に照らし合わせて考えられるようにする。</p> <p>○ クイズを「○×」で答え、その理由を考えさせることで、ルールとのつながりの理解を深められるようにする。</p> <p>○ マナーやルールを守らないでいるときの自分や周りの人の気持ちを考えさせ、そのときの表情を顔マークで表すことで、自分や周りの人が困っていることに気付かせる。</p> <p>○ 自分や周りの人への意識をもてるように、構造的に板書することで、3つの観点(人、安全・健康、マナー)に注目できるようにする。</p> <p>○ なぜマナーやルールがあるのか、一人一人にワークシートに書かせる。それを発表させ、お互いに聞き合うことで、「みんなが気持ちよく過ごすため」ということに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ 様々な立場からきまりを守る意味を考えている。(発言)</p> </div> <p>○ 話し合いで出てきたキーワードを確認し、ルールやマナーの大切さについてこれまでの自分を振り返る。</p> <p>○ 表情を顔マークに表すことで、マナーやルールを守ると、みんなが気持ちよく過ごせることを捉えられるようにする。</p>
<p>5 この学習を通して、考えたことをワークシートに書く。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ワークシートに書く。 (2) 発表する。 <p>6 家庭学習で、家庭でのルール作りをしていくことを知る。</p>	<p>15</p>	<p>○ 学習を通して考えたことを振り返ることで、実践意欲につながるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ これまでの自分を振り返り、マナーやルールを守る大切さについて考えを深めている。(ワークシート、発言)</p> </div> <p>○ 家庭で情報機器を使うときのルール作りをしていくことで、学校だけではなく、家庭での使用についても意識を高められるようにする。</p>

○ クイズで使った動画 (You Tube)

- ① 文部科学省／mextchannel 「教材⑰スマートフォンやタブレットなどの利用マナー（導入編）」
<https://youtu.be/GWORig5W15Y> (参照日 2022/9/15)
- ② 文部科学省／mextchannel 「教材⑱スマートフォンやタブレットなどの使いすぎ（導入編）」
https://youtu.be/2XclFBbfX_I (参照日 2022/9/15)
- ③ 広島県坂町「PR 動画 ATTACK of smartpyone」 <https://youtu.be/4AVUEogb22k>
(参照日 2022/9/15)
- ④ 一般財団法人三重県交通安全協会公式チャンネル「ながら操作は危険です（歩行者・自転車編）」
<https://youtu.be/lXFM697Lyi4> (参照日 2022/9/15)
- ⑤ 西日本鉄道株式会社「にしてい電車マナーUP 講座（携帯電話編）」 <https://youtu.be/PUzUPq60WuY>
(参照日 2022/9/15)
- ⑥ 文部科学省／mextchannel 「教材⑰スマートフォンやタブレットなどの利用マナー（導入編）」
<https://youtu.be/GWORig5W15Y> (参照日 2022/9/15)

おうちのひととかがえたルールをふいかえろう

() ねん () ばん なまえ ()

おうちのひとときめたルールについて、まもってせいかつできているか ふりかえりをしていきます。ふりかえりをして、これからのせいかつのなかで、いろいろなじょうほうききを じょうずに つかっていきましょう。

☆ ふいかえりのしかた(子ども):上のだん

- ① 月ごとに、じぶんじしんをふりかえって、あてはまるきごうをかく。
- ② そのきごうにした りゆうをかく。また、つぎからどうしたらよいかもかく。

☆ ふいかえりのしかた(保護者):下段

- ① 月ごとに、お子さんの姿に当てはまる記号を書く。
- ② その姿に対して、これからの生活へのアドバイスや賞賛など、今後の励みになる言葉を書いてください。

☆ 記号 ・ぜんぶまもれた：◎ ・はんぶんまもれた：○ ・いくつかまもれた：●
 ・ぜんぜんまもれなかった：△

月日	記号	ふりかえり
10/ ()	◎	
11/ ()	◎	
12/ ()	◎	

第4学年 社会科学習指導案

日 時 令和4年11月25日（金）5校時

授業テーマ

適切に情報を判断・収集する方法を理解し、インターネット等を活用しながら、課題を解決することができる授業

1 単元名 「きょう土の伝統・文化と先人たち」（きょう土の発てんを支えた「安積疏水」）

2 単元設定の理由

(1) 教材観

この単元では、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉えながら、調査活動や各種資料から先人の働きを考え、表現する。

水資源が乏しく、思うように安積開拓が進まない中で、先人達の苦心や努力により完成した「安積疏水」。完成前後に関わった人々の思いや願いなどに着目しながら、完成により当時の人々の生活が向上したことや現在の郡山市の発展につながっていることに気付かせたい。また、先人の働きについて調べる活動で得た様々な情報の中から必要な情報を収集・整理・表現する活動を通して、情報の取り扱いについての情報モラルを学んだり、情報活用能力を育成したりすることができると思う。

(2) 児童観

(略)

(3) 指導観

本単元で取り扱う社会的事象は、子どもが居住する地域の教材ではないため、教材との出合わせ方を工夫する。写真資料や統計資料等を活用し、子どもたちが感じる「えっ?」「どうして?」に寄り添いながら、自分事として課題を解決する過程を大切にしたい。また、本単元での調べる活動に取り組む際は、調べ方などを例示し、参考資料となる図書資料やインターネットの活用方法について指導を行う。また、調べたことについて、タブレット端末を利用してまとめ、発表することで、調べたことに対する自信を高め、「次は〇〇をもっと調べてみたい」と次の学びに向かう姿を大切にしたい。調べ学習をする際には、情報モラルの内容を関連させ、インターネット情報の便利さだけでなく、情報の整理や分類、比較・関連付ける大切さや情報社会の倫理などについて考えることができるようにしたい。(活用型情報モラル教育)

3 単元の目標

- 県内の先人の働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、表現することを通して、当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習課題を追究・解決しようとする態度を養う。

4 学習計画（総時間12時間、本時4時間目）

次	時	学習内容	■情報モラル ○指導上の留意点
1	1	工事の様子や人物に関する写真資料等を提示し「安積疏水」についての関心を高め気付いたことを話し合う。	○ 写真資料や統計資料等を提示し、そこから生じる「えっ?」「どうして?」を全体で共有する。それぞれの子どもの疑問を可視化し、それに対して自分なりの予想をもちながら、追究したいことを話し合うことができるようにする。
	2	学習問題をつくる。 「当時の人々は、どのように安積疏水をつくったのだろうか」	○ 郡山市の地理的な特徴を捉えながら、当時の人々の苦心や願いについて、水の確保の難しさと生活への影響を関連付けて調べるようにする。 ○ 学習問題の解決のために調べることを整理し、学習計画を立てられるようにする。
2	3	誰がどのようにに関わり、どこから、どのようにして水を引いたのかを調べる。	○ 調べるサイト・資料をいくつか提示し、調べる情報を比較できるようにする。【3～8時同様】 ■ 不適切な情報に出会ったときは、担任に意見を求め、適切に対応できるようにする。 【3～8時同様】
	4 本時		■ 複数のサイトを比較し、インターネットの情報の信頼性を見極められるようにする。 【3～8時同様】 ■ 調べたサイト・資料の名称《出典》などを記入するよう助言する。 【3～8時同様】
	5	水を送るための工夫について調べる。 (1) 十六橋水門 (2) 奥羽山脈の水路工事	○ 様々な問題点（猪苗代湖の水位調整、固い岩盤を貫通させるための工事方法等）をどのように解決したのかを予想し、調べるようにする。
	6		
	7	完成後の生活の変化について調べる。 (1) 水田の広がり (2) 沼上発電所	○ 地図資料や統計資料等を活用し「安積疏水の完成と水田の広がり」「電力供給量と工業の発展」等を関連付けながら、安積疏水完成前後でどのような変化があるのかを捉えることができるようにする。
8			
3	9	調べたことを全体で整理する。	○ 子どもの必要に応じてシンキングツールを活用し、いくつかの視点にそって情報を整理することができるようにする。 ■ 安積疏水について、調べて分かったことや出典を明らかにして、パンフレットにまとめられるようにする。 ○ 発表を通して、他のグループのまとめ方と比較できるようにする。
	10	パンフレットにまとめる。	
	11	発表をする。	
	12		

5 本時のねらい

先人たちはどこからどのようにして、郡山に水を引いたのか調べる活動を通して、工事の困難さや先人の働きについて考え表現することができる。

6 学習過程（本時4／12）

段階	学習活動・内容	時間	■情報モラル ○指導上の留意点 ※評価
課題把握	1 本時の課題を把握する。 ㊟ 先人たちは、どのようにして、郡山に水を引いたのだろうか。	7	○ 前時の学習を振り返り、どんな視点で調べるかを子どもたちと共有することで、本時の学習の流れを確認し、見通しをもつことができるようにする。 ○ 調べるサイト・資料を提示し、調べる情報を比較・選択できるようにすることで、情報を吟味しながら調査活動を行うことができるようにする。
	2 グループ活動で課題解決する。 ・猪苗代湖の山潟取水口から奥羽山脈を通して水を引いた。 ・約3年かかった。 ・のべ85万人協力した。 ・中條政恒、ファンダーレンが関わった。	28	■ 不適切な情報に出会ったときは、担任に意見を求め、適切に対応できるようにする。 ■ 複数のサイトを比較し、インターネットの情報の信頼性を見極められるようにする。 ■ 調べたサイト・資料の名称《出典》などを記入するよう助言する。 ○ 郡山市や猪苗代湖の「位置や空間的な広がり」や工事に費やした「時期や時間の経過」等に着目し、調べたことを根拠にしながら社会的事象を考える姿を見取り、そのよさを価値付けるようにする。
課題解決	3 全体で情報を共有し、工事の困難さや先人の働きについて考える。		
	4 学習のまとめをする。 ㊞ オランダ人のファンダーレンを中心に85万人の人が約3年かけて、いなわしろ湖から郡山に水を引いた。	10	※ 安積疏水の工事について調べ、工事の困難さや先人の働きについて考え表現することができる。(タブレット, 発言, ワークシート) ○ 本時の学習を振り返り、工事の工夫や苦労につながる子どもの考えを共有することで、次時の学習につなげる。 ■ 自分の情報活用について振り返り、次に生かせることができるようにする。
まとめ・振り返り			

7 参考HP等

- ・ 郡山市開成館「郡山市開成館ウェブサイト」
<https://www.bunka-manabi.or.jp/kaiseikan/history/> (参照日 2022/12/15)
- ・ 農林水産省「安積疏水・十六橋水門：農林水産省ウェブサイト」
<https://www.maff.go.jp/j/meiji150/toti/10.html> (参照日 2022/12/15)
- ・ NHK 日本放送協会「地域の発展につくす～用水路開発～ よろしく！ファンファン | NHK for School」
https://www2.nhk.or.jp/school/watch/outline/?das_id=D0005120474_00000 (参照日 2022/11/24)
- ・ 安積疏水土地改良区「安積疏水の歴史 - 安積疏水土地改良区ウェブサイト」
<http://www.asakasosui.jp/> (参照日 2022/12/15)
- ・ 郡山市歴史資料館「安積疎水資料 PDF 版」
<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/30112.pdf> (参照日 2022/12/15)
- ・ 郡山市文化スポーツ部国際政策課「未来を開いた『一本の水路』パンフレット」
<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/37816.pdf> (参照日 2022/12/15)
- ・ 文化庁「未来を拓いた『一本の水路』 | 日本遺産ポータルサイト」
<https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story022/> (参照日 2022/12/15)